

使用済み核燃料が無毒になるまでの期間

10万年の長さを考える

使用済み核燃料の表面線量はおよそ 100,000Sv/h (シーベルト / 時間)、ちなみに 100% の人が死亡するとされている放射線量が約 7Sv/h (注1) です。厄介なことに、この核燃料は崩壊熱 (注2) のため、冷やせなくなると爆発し、放射能をまき散らします (注3)。その上、核燃料を無毒にする技術はなく、無毒になるまで管理をし続けなければなりません、その期間はなんと 10 万年! ... とも。そのようなものが、日本には約 20,420 トン (注4)、私たちの住んでいるこの日本の片隅で、最終処分の目処も全くたたないままひっそりと冷やされ続けています。そして、この負の遺産でしかない使用済み核燃料は、原発が稼働し続ける限り増え続け、10 万年先の未来の世代まで受け継がざるを得ないので。

もう、これ以上この問題から目を逸らすのはやめにしませんか？

(注1) 国際放射線防護委員会 (ICRP) の勧告より

(注2) 発電後に、核分裂で不安定になった原子核から出るベータ線やアルファ線から発生する熱、使用済み燃料等は崩壊熱を多くだし温度が高くなるため、水や空気で冷却されている。

(注3) 東京電力福島第一原子力発電所 4 号機の爆発は使用済み核燃料によるものです。

(注4) 2010 年 9 月末の状態 (経産省資料より)

10 万年を考えるための資料



人類の歴史

